

目 次

人間関係学科Q&A

- 1) 入試関連…………… 2
- 2) 大学での学びに関して…………… 7
- 3) 人間関係学科で取得できる資格…………… 9
- 4) 大学卒業後の進路……………11

人間関係学科Q&A

このQ&Aは、人間関係学科についてよく質問される事項の回答を載せています。基本的な事項については、冊子「入学試験概要」、冊子「大学案内」、ホームページ掲載情報を参照してください。

1) 入試関連

●大学共通テスト

Q. 3教科3科目ということですが、どの科目を選択するのが有利ですか？

とくに何が有利ということはありません。

英語、国語以外の科目は、何を選択してもよく、最も点数が高かったものを合否判定では使いますので、得意な科目を受験してください。そのため、できる限りたくさんの科目を受験しておくといいでしょう。

Q. 英語（リスニング）の配点はどのようになるのでしょうか？

2020年度入試では、筆記（100点満点）とリスニング（100点満点）を4：1の割合に換算し、合計で200点満点にした値が、英語の点数になります。ただし、今後の大学共通テストによっては、配点に変更される可能性もあります。詳細は最新版の「入学募集要項」を参照して下さい。

Q. 大学共通テストの英語では認定試験は用いられますか？

2020年度入試では、英語認定試験は用いません。

●合格率や合格ライン

Q. 合格率はどの程度なのですか？

「大学案内」およびホームページ（<http://www.kitakyu-u.ac.jp/>）に出願者数、受験者数、合格者数などの詳細を掲載しています。それらを参考にしてください。年度によって異なりますが、倍率は、実質で2～3倍程度です。詳細については「大学案内」およびホームページを参照してください。

Q. どの程度の点数をとれば合格しますか？

「大学案内」に合格者の得点率を掲載していますので、それを参考にしてください。

合格ラインは、一般入試については、センター試験7割程度、個別入試6割程度を点数すること、また、推薦入試の小論文の場合、全国・地域推薦で5割、特別推薦で4割程度が目安になるようです。ただし、年度によって異なりますので、詳細については「大学案内」やホームページを参照してください。

●小論文（学校推薦型選抜、一般選抜（前期日程）共通）

Q. 小論文の採点基準は？

出題の意図、答案の特徴・傾向等をホームページに掲載しています。年度によって多少異なりますが、以下のような採点基準をとっています。

主要採点項目

- ・妥当性 設問に対する答えになっているかどうか
- ・独創性 ユニークな解答であるかどうか
- ・論理性 論述が論理的であるかどうか

主要減点項目

文章表現、誤字、脱字、表現力など

Q. 小論文では、どのような勉強をすればいいのですか？

文章を読んで、それに対して、自分の考えを文章で表現できるようにしてください。日頃から、いろいろなことに対して問題意識を持ち、自身の意見や考えが他者に論理的に理解されるよう、客観的な記述を心がけることも重要でしょう。そうした能力を獲得するためにも、いろいろな本を積極的に読みましょう。

文章を書けるようになるには、自分で書くことを積み重ねていくことが大切です。そして、書いたものを先生などに添削してもらおうと上達するでしょう。誰かに読んでもらって意見を聞くのが上達のコツです。いずれにしても、自分にあった勉強法を自分で見つけることが大切です。

Q. 小論文で英語は出るのですか？

一般選抜（前期日程）の小論文については、これまで課題文として英語の文章が出ることもありました。が、2020年度入試からは、日本語の文章のみでの課題文となります。詳細については「入学募集要項」を参照して下さい。

学校推薦型選抜については、今まで通りです。小論文で英語が出ると確約はできませんが、これまでに課題文として、日本語の文章が出なかったことはありますが、英語の文章が出なかったことはありません。勉強としては、英語の文章が出てくるものだと考えておいた方がよいでしょう。

Q. 小論文の問題の傾向は？

ホームページに出題の意図、答案の特徴・傾向等を掲載していますので、それを参考にしてください。過去の問題は、残部がある分はオープンキャンパス（例年7月に実施）などの時に配布しています。あるいは、市販の受験参考書（いわゆる赤本など）も利用して過去の問題を見るとよいと思います。これまでの設問の傾向をみると、課題文が理解されているかを問う設問も出ています。勉強としては、小論文を書くことだけではなく、学校推薦型選抜入試では、英語や日本語で書かれた文章を読み解くことも日頃から行っておくとよいでしょう。

Q. 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価はどのように行うのですか？

学校が推薦する学校推薦型選抜入試では調査書や受験する本人が記載する資料などを活用します。一般選抜（後期日程）では集団討論試験を行っていますので、討論での受験生の言動を通して評価を行います。

●学校推薦型選抜入試（地域推薦・全国推薦・特別推薦）

Q. 調査書は点数化されるのですか？学校間格差はどうなるのですか？

学校が推薦する学校推薦型選抜入試では、評定平均値を数値化しています。調査書と推薦書を合わせて30点満点です。学校間格差は、客観的なデータがありませんので、考慮していません。ただし、実質的に大きな差がつかないようにしています。最大で10点ほどしか差がつきません。

Q. 推薦の内容は判定基準に影響を与えるのですか？

推薦の内容による優劣はつけておりません。高校のほうから推薦をいただいたということで信頼させていただいております。

特別推薦については、活動・資格等実績が合否判定の対象となります。

●特別推薦入試

Q. 特別推薦では、特別能力と小論文でどちらが重視されるのですか？

ほぼ半々だと考えていただいて結構です。

Q. 特別推薦の合否はどうやってなされるのですか？

特別能力と小論文でそれぞれある程度ランク付けをし、双方のランクが高いものから合格者を決めていくようなイメージです。数値化できない能力に対して評価しようという特別推薦のねらいですから、特別能力を数値化した判定は行っておりません。

Q. 特別推薦で、出願できる活動内容はどのようなものですか？

特別推薦は、勉強以外での高校時代の努力が評価の対象になります。したがって、その内容については、何でもかまいません。入試概要には、わかりやすく例示をしていますが、それ以外の内容でもまったくかまいません。

競技や資格などの成績については、出願要件のラインを設けてありますが、それ以外の活動では明確な要件はありません。活動内容については、競技実績でその実績がすぐわかるものもありますが、基本的には、どのような活動でも、どのような内容で、どのような実績があり、受験生がどの程度貢献したのかを添付資料を付けてアピールしてください。

Q. 特別推薦で、どの程度の実績があれば合格できますか？

最近の傾向としては、競技関連においては、全国大会レベルの実績を残した方の出願が多いようです。そのため、地方大会レベルの出場では合格ラインに達するのが難しくなっているようです。

人間関係学科では、小論文と特別能力をほぼ半々で判断することにしていきますので、小論文で高得点をとれば、多少、特別能力が相対的に低くても合格する可能性は十分にあります。過去にそのような実績がありました。ただし、年によってどのような受験生が受験するのかわかりませんので、判断が難しいところです。

Q. 特別推薦では、社会的活動などは、どのように評価されるのですか？

競技種目に比較すると、判断が難しいと思います。

競技や資格などで高い実績を上げた人は、毎日のように勉強や練習をしたはずですから、その継

続的な努力の成果に対して、評価が与えられます。社会的活動も、継続的な努力がなされたかどうかの評価の鍵です。例えば、月に 1 回程度、何の準備をする必要もなく、活動した程度では、他の競技や資格での実績に見劣りするでしょう。

また、団体で活動した場合、その中で貢献度が評価されます。リーダーとして中心的な役割を果たしたなどの実績は高く評価されます。

どの程度の継続性があったのか、どの程度の貢献度があったのか、さらに具体的にどのような内容のこと（準備段階も含めて）を行ったのかを、推薦書に書いて（別途資料に付けることができます）アピールしてください。

Q. 特別推薦で、出願できる資格はどのようなものですか？

出願する際は、どの資格が可能で、どの資格が不可能ということはありません。入試概要にあげてある例については、そのレベル以上でないと出願できません。しかし、それ以外の資格については、出願時に絶対にダメだということはありません。世の中には多くの資格がありますので、例示されていない資格の場合には、出願時にどの程度の難易度なのか、どの程度価値あるものと認められたものなのかを記載していただく必要があります。

Q. 特別推薦で合格した場合には、入学後もその特別活動を続けなければいけないのですか？

高校在学中の継続的な努力を評価していますので、入学後に活動を続けるかどうかは制限しません。入学後も継続して活動している人ももちろんいますが、高校までの活動とは別の新たなことに挑戦する人もいて、入学後の活動の継続についてはいろいろです。

Q. 「同一高等学校における同一業績による特別推薦合格者は、1 高等学校あたり 1 名に限定します」とありますが、団体競技などで同一業績を得た 2 名以上が受験してもいいのですか？

受験するのは同一業績の 2 名以上でもかまいません。ちなみに、2022 年度入試からは、推薦枠を「1 高等学校あたり 2 名」に限定します。詳細については「入学募集要項」を参照して下さい。

●一般選抜（後期日程）の集団討論について

Q. 集団討論はどのような形式ですか？

与えられたテーマにしたがって、5，6 名で討論を行います。面接官は一切関与せずに、受験生だけで進めていただきます。面接官は、受験生の討論の様子を見て、採点します。

Q. 採点基準は？

出題の意図、集団討論で見られた特徴・傾向等をホームページに掲載しています。

ちなみに、2018（平成 30）年度入試では、以下のような内容が掲載されています。

一部抜粋です。

* 集団討論の意図・ねらい

後期日程の試験は、数人の受験生による与えられた討論テーマに基づいての集団討論である。テーマを設定した討論場面において、自分自身の見解をテーマに沿って論理的・独創的に表現できる力、情報提供や意見調整など円滑なコミュニケーションを進める力、集団の中で適切なかた

ちでリーダーシップを発揮していける力などを見ていきたいと考えている。

* 受験生の特徴と傾向

集団討論では、限られた時間の中で、それぞれの意見を引きだし、テーマに関する背景や論点を設定し、その解決策に向けて建設的な議論をしていくことが求められるが、集団討論の経験や準備の差が見られた。討論については、それぞれの意見を尊重すること、テーマに沿って討論を進める点については意識されていた。ただし、討論によってテーマを深めていくことやとりわけ問題解決の方向を発展させていくことについては課題が見られる。意見交換や、賛否を出し合う、経験を紹介しあうということにとどまらず、テーマに沿って問題を確認し、その解決策について深めていくことを意識してもらいたい。

Q. 集団討論にあたって、どのような勉強をすればいいのですか？

他者の考えを聴いて、それに対して自分の意見を口頭で表現できるようにしてください。他者の意見に対して、一方的に反論や賛成をするのではなく、論点と根拠を明らかにできるようになっていなくてはなりません。

日頃から、いろいろなことに対して問題意識を持ち、自身の意見や考えを、他人に対して説得力を持って伝えるにはどうすれば良いかを考えることが大切です。また、他人の意見を受け入れ、建設的な議論を組み立てることも重要です。自分の意見を手短かに表現できるように、いろいろな機会積極的に発言するようにしましょう。

いずれにしても、自分にあった勉強法を自分で見つけることが大切です。



スロープからみた北九州市立大学本館

2) 大学での学びに関して

●学科の授業の特徴

Q. 人間関係学科の授業の特徴を教えてください。

人間関係学科の授業は、1～2年次の人間関係学演習 A・B や 2年次の実験・実習科目など、参加型の学習が充実しているのが特徴です。少人数で実際的な実験や調査などを行いながら、専門領域に関する基礎的な力を養います。フィールドワークなど教室外、大学外での活動も行っています。

●授業科目等

Q. カウンセリングの勉強はできますか？

北九州市立大学では、カウンセリングに関する基本的な知識や理論について学ぶことができます。カウンセラーを目指す場合、より高度な知識や技術を身につけたい場合には専門的な勉強をし、多くの実践経験を積まなければいけません。本学ではそのための基礎作りにウェートを置いた授業内容を採り入れており、卒業後に臨床心理士養成の指定大学院・専門職大学院に進学する学生たちもいます。カウンセラーは心の援助に関する専門職ですから、知識ばかりではなく、かなりの努力と忍耐が必要とされます。また向き不向きもあります。勉強したからといって誰もがカウンセラーになれるわけではありません。

(補足：本学では公認心理師養成課程は開設されていません)

Q. 「認知心理学」や「臨床心理学」などの違いがよくわかりません。

臨床心理学では、不適応や障害とその援助のあり方について学びます。心理学の中にあっては、人間社会の心の問題に対処する応用的な内容です。一方、認知心理学は、どちらかというとも基礎的な内容です。認知とは、人間の知覚・記憶・思考といった処理過程のことをさします。ただし、知覚・記憶・思考は、私たちの生活場面で切り離せないところですので、応用的にとらえていくこともできます。近年の認知心理学は、むしろ、そういったところにさかんにアプローチしています。

Q. 「犯罪心理学」を学ぶことはできますか？

「犯罪心理学」といった科目は開講されていないため、科目がないという意味では学べません。ただし、心理学のいろいろな科目で学んだ知識から、あるいは、人間関係学科の心理学以外の科目から、なぜ人は犯罪を行ってしまうのかについて考えることはできます。大学では自分の知りたいことをすべて学ぶことができるわけではありません。自分で知りたいことを学ぶ環境を提供してくれるのが大学です。各学問の基礎知識は授業で提供しますが、それをどのような場面で活かすかは学生本人が行うことです。

Q. 「生涯スポーツ」って、どんなことをするのですか？私、体育は苦手なんですけど。

「生涯スポーツ」は、文字通り、子どもから高齢者まで、楽しみや健康のためにスポーツを行うことの大切さを学びます。競技として勝つことを目指して行うスポーツではありません。スポーツが苦手だという人にも、どのようにすればスポーツを楽しむことができるかを考えていくこととなります。このような取り組みは、スポーツが得意な人よりも、苦手だと感じていた人のほうが、自分の体験から、「生涯スポーツ」がどうあるべきかを考えることができるはずです。

Q. 大学外に出かけて学んだりしますか？

実習科目では、近くにある市場や小学校など、いろいろな場所に出向き、そこであらゆる世代のさまざまな人に会い、それらの人々と関わりながら、調査の手法や関わりの技法を学びます。そして、調査で集めたデータや関わりを通して得られた体験を理論的・学問的に考えていきます。

卒業論文を書くために、県外や外国に調査に出かける学生もいます。

●その他

Q. 留学は可能ですか？

可能です。留学には協定校への交換留学や語学研修等があります。また、現地での文化交流などを含め留学には多種多様な選択肢があります。人間関係学科の学生も、短期・長期で様々な留学をしています。留学先も欧米からアジアまで多様です。大学が募集する留学プログラムについては、大学等からの助成金を得ることも可能です。

留学と就職の関係については必ずしも有利であると断言できませんが、留学が不利になることはありません。留学が自分の将来構想や学生生活の上で必要と判断した場合は、大学等からの案内を通して前向きに検討するのもよいと思います。

Q. 転学科はできるのでしょうか？

制度としてはあります。しかし、かなりハードルが高く、これまでの例は非常に少ないです。

3) 人間関係学科で取得できる資格

●教員免許・認定心理士・学芸員など

Q. 教員免許はどの程度の学生が取得していますか？就職はどうなっていますか？

人間関係学科では、2010（平成 22）年度の卒業生から中学校教諭一種免許状（社会）と高等学校教諭一種免許状（公民）を取得することができるようになりました。例年、おおよそ 7, 8 名の学生が 1 年次に教職課程の履修登録を行い、教員免許状の取得を計画しています。

これまで教職に就いた卒業生はいますが、社会科や公民科の場合、2018 年度は 1 名いるものの、現役学生の教員採用試験合格はなかなか難しく講師経験などを経て教員になるケースが多いようです。

Q. 認定心理士の資格取得者数を教えてください。また、メリットはありますか？

例年数名の学生が取得をしています。日本の心理学関係の学会で最も権威のある「日本心理学会」が認定した資格ですので、心理学を勉強したというお墨付きになっています。

何か特定の仕事をするための資格ではありません。心理学全般について勉強したことを証明するだけですので、それをどのような仕事に応用するかは、本人次第です。

Q. 学芸員の資格取得者数はどの程度ですか？また、学芸員に就職することはできますか？

毎年数名が資格を取得しています。4 年次には博物館などでの実習をすることになります。学芸員は、研究職としての位置づけですので、大学院できちんと勉強をしないと学芸員の仕事に就くのはなかなか難しいですが、これまでは実際に学芸員として就職している例もあります。

Q. 社会教育主事や社会福祉主事の資格はどのような場合に有利なのですか？

社会教育主事や社会福祉主事は、任用資格です。任用資格とは、その職種に就いたときに、「〇〇主事」と名乗ることができるという程度のものだと考えるといいでしょう。この資格がないと社会教育や社会福祉関係の仕事に就けないわけでもなく、この資格を持っているから、公務員試験に有利になるというものでもありません。社会福祉主事は公務員になって福祉事務所に配置された場合は必修の資格となります。また民間社会福祉現場に就職活動をする際は、考慮されることもあります。他の資格と異なり、資格を得るために取得すべき科目数も少なく、教育実習などのように一定期間、関係施設で行う実習などありません。しかし、一部の自治体（少数）では専門職採用を行っているところもあります。

なお、社会教育主事の単位取得者には、社会教育士の称号が付与されるようになりました。社会教育士には、NPO や企業等の多様な主体と連携・協働して、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる役割が期待されます。

また、民間の福祉施設などでは、職員として備えるべき知識の基準として任用資格が評価されることもあるようです。公務員になってから、職務上資格が必要になってから集中講義等で単位を取得することも可能ですが、その分野での仕事を希望する場合は、在学中に取得しておくことが望ましいでしょう。

●複数の資格取得・資格取得後の就職など

Q. 複数の資格を取得することはできるのでしょうか？

教員や学芸員の資格取得のためにとらなければならない授業は多く、そこには実習なども含まれているので、現実には、教員と学芸員両方の資格を取ることはかなり困難です。ただし、教員と認定心理士の資格、学芸員と社会教育主事の資格などのように、組み合わせによっては複数の資格取得が可能です。とはいえ、取らなければならない授業が多いことは確かで、1年次からの計画的な履修が必要になるでしょう。

Q. 臨床心理士の大学院に合格している学生はどの程度ですか？また、臨床心理士にとって、どの程度卒業生が就職しているのでしょうか？

年によって変動しますが、年間数名の学生が大学院に合格しています。就職に関しては、本学卒業後に他大学の大学院に進学した学生の情報がすべて入ってくるわけではないため正確な実態はつかめていませんが、病院や児童相談所、福祉施設、教育機関などで職を得ているようです。

(補足：臨床心理士になるには、臨床心理士養成の指定大学院や専門職大学院に進学後、さらに試験に合格をしないとけません)



卒業論文中間発表会のようす

4) 大学卒業後の進路

●就職・進路先など

Q. 人間関係学科の学生はどのようなところに就職をしていますか？

人間関係学科の就職率（就職希望者に対する就職者の割合）はここ数年を見てもずっと 9 割以上ですし、2019（令和元）年度は 100%になりました。実就職率（卒業生から進学者を引いた数に対する就職者の割合）も、2019（令和元）年度は 93.4%です。いずれも維持・向上できるように 1 年次からのキャリアガイダンス等も検討しています。

就職を希望しない者は、大学院進学、公務員再受験、留学、専門学校・資格取得、アルバイト・フリーターなどです。

Q. 人間関係学科の学生はどのようなところに就職していますか？

大きくは 3 つ。①企業（サービス、商業、マスコミ、出版など）、②公務員（専門職を含む）、③医療・福祉系の就職（社会福祉施設など）です。大学院に進学する人もいます。つまり専門性を活かした幅広い進路・就職が可能ですから、どのような分野にも就職しています。一般企業のさまざまな職種、公務員など、特定の分野に偏っているということはありません。

また、他の学科とは異なり、病院や社会福祉関係の施設の就職者がいます。ただし、求人の絶対数が少ないため、目立つ数ではありません。また、このような就職先は、一般企業とは異なり、年度末の欠員補充で決まることなどが多く、大学で十分に把握できないことがあり、数字にはあまり出ていません。

Q. 心理学を勉強すると、どのようなところに就職できますか？

心理学は人間に関わることすべてに関係する学問ですから、どのような仕事にも役立ちます。公務員、福祉関係、一般企業事務、営業、人事、製造業、出版・放送、サービス業、なんでも役立ちます。ただし、勉強した本人が積極的に役立てる努力をしないと何の役にも立ちません。4 年間で勉強した上で、さらに仕事をしながら現場に応用できる心理学を学ぶことが必要でしょう。

カウンセラーなどに心理学と直接関係があると思われる仕事に関しては、大学 4 年の勉強では不十分です。大学院に進学して実践的に学ばなければいけません。

Q. カウンセラーになるには、臨床心理士をもっていないとだめでしょうか？

カウンセラーは、医療資格のように特定の資格がないとできないものではありません。カウンセラーに関わる資格は臨床心理士や公認心理師をはじめ多くのものがありますが、民間資格では大学卒業後に指定の大学院進学や実務経験といった要件を充たすことで受験資格が得られるものもあります。

例えば、臨床心理士の受験資格取得には指定大学院や専門職大学院への進学が必要となりますが、本学では毎年数名の学生が臨床心理士を目指して大学院進学を選択しています。いずれにせよ、カウンセラーには臨床心理学以外にも心理学全般の知識が求められますので、心理学関連の科目を幅広く勉強することをお勧めします。

（補足：本学では公認心理師養成課程は開設されていません）

Q. 大学院の進学者はどの程度ですか？また、どのような大学院に進学していますか？

年によって異なるようですが、現役以外の学生を含めると、年に数名程度でしょう。最も多いのは、北九大をはじめ、九州大学の大学院や広島大学の大学院など近隣の大学院です。それ以外では、京都大学、名古屋大学、関西大学、お茶の水女子大学などの大学院に進学した学生がいます。

●就職・進路先の支援

Q. 就職に関しては、どのような対策をとっていますか？

北九州市立大学では、学生の進路・就職を支援するためのキャリアセンターが設置され、民間企業経験者を専任教員に迎え、学生の社会人としての基礎力を養成しています。

* 1・2年生向けのキャリア支援

1～2年次から、「コミュニケーション能力や課題発見・解決能力といった仕事をする上で重要な力」「『なぜ働くのか』『将来何がしたいのか』といった職業観」「社会人としてのマナー」などの力を学生が身につけるよう、取り組んでいます。学科独自のキャリア支援も行っています。

* 3年生以上のキャリア支援

3年次以上に対しては、学生のニーズなどをふまえながら、就職のための説明会や対策講座、卒業生等のアドバイス、業界セミナー、(海外も含む) インターンシップのための情報提供を行っています。そして、就活手帳なども作成して配布したり、ホームページで求人情報を検索できるようにしたりしています。

さらに、「何をしたいかがわからない」といった段階の学生も含め、進路相談やキャリアカウンセリングなども対応できる体制を整えています。

キャリアセンターで登録を行った学生には、メールで講座の案内や企業説明会の紹介も行っています。4年次においても、就職状況をチェックしながら、個別の相談や情報提供も行い、卒業まできめ細やかに対応しています。

業種別では、例えばマスコミ関係については、無料講座などを受講したり、OB・OG 訪問をしたりして就職活動を行っています。

Q. 文学部は、就職に関する対策を何か行っていますか？

文学部では履歴書の書き方や面接対策の講座や、3年生以下向けに行う4年生による就職活動体験談など、さまざまなキャリア支援やセミナー開催などの取り組みを行っています。また学科独自の取り組みとして人間関係学演習 B では、キャリア教育も取り入れています。

ゼミでは、教員が個別に指導を行っています。とくに、ゼミの先輩とのつながりが有効で、職場や就職活動などの具体的な話を聞く機会や情報提供をしています。

また、ボランティア活動などの紹介もしています。